2025年度入試

入学試験問題集

【応用心理学部　臨床心理学科】

東京成徳大学

TOKYO SEITOKU UNIVERSITY

目　次

総合型選抜　9月入試　小論文…… 1

総合型選抜　10 月入試　小論文 …… 2

総合型選抜　12 月入試　小論文 …… 3

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）　小論文 …… 4

帰国生入試…… 5

外国人留学生入試…… 6

一般選抜　C 日程入試　小論文　…… 7

一般選抜　D日程入試　小論文…… 9

出題意図・解答例…… 10

「一般選抜 A 日程・B 日程・C 日程」の問題は、
「2025 年度入試問題集　一般選抜 A 日程入試・
B 日程入試・C 日程入試」に掲載しています。

●総合型選抜　９月入試

【小論文】（試験時間：60 分）

問題　以下の文章を読み，次ページの設問　問 1～問 4 について解答してください。

この頃はほとんど a) 廃れてしまったが，従来日本人が贈答の際に見せた心遣いについて言及しておこう。日本人は他人に贈り物をする際，それをまず綺麗な紙で包み，更にその上を風呂敷で包んで持参するのを常とした。もっとも，贈り物を包むことだけなら必ずしも日本人だけとは限るまいが，これを実際に相手に渡す時に口にする b) 挨拶はかなり日本人に独特であったと思われる。というのは，渡す側は「これはほんとにおしるしです」とか「つまらぬものですが」と言い，中に何が入っているかは明かさなかった。受け取る側も「そんなにお心遣いして頂いて」とか何とか礼は言うが，中に何が入っているかは決してその場で聞こうとせず，まして客がいる前で包みを開けたりはしなかった。私は昔子供心にこのことを大変いぶかしく思った記憶がある。恐らく客がなかなか帰らず，せっかくもらってもすぐにあけて見れないので，もどかしく思ったのだろうが，そんなわけで戦後まもなく渡米して，アメリカ人が贈り物をもらうとすぐその場であけるのを知りびっくりするとともに，この方が合理的ではるかにいいと思ったものである。

しかしこの頃になって c) 漸く日本の従来の習慣に捨て難い良さがあると思うようになった。なぜなら物を贈るのは心を贈るので，物は心のしるしに過ぎない。だから心が肉体に包まれて外からは見えないように贈り物も念入りに包まれねばならぬ。またそうであればこそ受け取った贈り物をすぐその場であけて中を見るのは心なき業ということになる。そうすることはあたかも相手の [　　] として贈り物を受け取るのではなく，ただ中の物だけが目当てであるごとき印象を与えかねないからである。この美しい習慣も今はほとんど失われてしまったが，このことは隠れたものに価値をおかない時代の風潮の結果であるということができるのである。

出典：土井健郎（1985）「表と裏」弘文堂

（問 1）　下線部 a) ～c) をひらがなで記述してください。

（問 2）　空欄に当てはまる語を，文中から抜き出して記述してください。

（問 3）　二重下線部，「この美しい習慣」とはどのようなものか，説明してください。

（問 4）　日本人の贈答の心遣いからは，心は外から見えるべきではなく，大切に守られ，隠されるべきものという考えが伺えます。ところで，カウンセリングにおけるカウンセラーは，相談者の心のうちを話してもらったり，表現してもらったりすることを求めていきます。隠されるべき心を見せてもらうとき，どんなことを大切にするべきでしょうか。あなたの考えを述べてください。

以上の 4 つの問いについての解答を、800 字以内でまとめてください（解答用紙に収めてください）。解答用紙に記入する際は、問 3 以降は開始部分に「問 3」「問 4」と明記してください。

●総合型選抜　10 月入試

【小論文】（試験時間：60 分）

問題　以下の文章は、ある新聞に掲載されたコラムです。この文章を読み、問 1～問 3 に答えてください。

＜視点＞食品配布会に長い列　行政は困窮者の声聞け　社会部・中村真暁

毎週土曜の昼過ぎ、東京都庁前にはとてつもなく長い行列ができる。認定 NPO 法人「自立生活サポートセンター・もやい」（新宿区）などが開く無料の食品配布会。「ありがたい」「ここがあってよかった」。物価高が続く中、みな安堵（あんど）の表情で米や果物が入った袋を受け取っていく。

ここに通い始めた 2019 年は、100 人以下の列だった。それが新型コロナウイルス禍に見舞われ、仕事や住まいを失う人が増えて利用者が急増。コロナの 5 類移行から 1 年以上たつが、最近も 700 人前後で推移し、今年 5 月下旬には過去最多の 800 人が訪れた。08 年のリーマン・ショック後、日比谷公園に設けられた「年越し派遣村」の約 500 人も大きく上回る。

利用者の様相も多様化した。以前は路上生活などの中高年男性がほとんどだったが、コロナ後はアルバイトを掛け持ちする若者や、足を引きずって歩く高齢者、赤ちゃんを抱っこする女性も来ている。それぞれが抱える困窮の背景も家庭内暴力や職場でのパワーハラスメント、介護離職などさまざまで、今まで隠れていた貧困の実態が露呈したようだ。

生活保護が必要な人のうち、利用するのは 2 割という国の推計があるように、必要な社会保障制度を利用できていない人も多い。制度の存在自体を知らなかったり、利用に後ろめたさや恥ずかしさがあったりして、「自分の力で何とかしなければ」と思い込んでしまっている。中には相談に行った役所で職員に差別的な視線を向けられ、追い返された人もいた。

配布会の光景が「普通」の状態として捉えられ、対処されないままほっておかれるのではないか―。にぎわいを取り戻す街中と比較し、最近はそんな不安が募るばかりだ。寄付で成り立つ配布会場のまさにその場所では、24 年度に 9 億 5000 万円の都予算が計上されたプロジェクションマッピングが行われている。公的機関が果たすべき役割を考えると、違和感を抱かずにはいられない。

そこで、都や区などの自治体職員に呼びかけたい。せめてこの場所で、相談会や生活保護申請を受け付けてもらえないか。配布会は困難さと直面している人々に出会えるチャンス。平日日中に役所へ行けない人や、役所に心理的なハードルがある人は多い。都庁周辺に限らず、同様の支援活動を行っている最寄りの場所でもいいだろう。市民が自ら申し出なければ制度を使えない「申請主義」から前進し、共助から公助につなげるきっかけを生み出せないか。

この春、人々とともに生活課題に取り組む社会福祉士の資格を取った。社会的に排除された人々の解放を促すことが責務の一つ。それは、ジャーナリズムの役割とも重なるように思う。記者として、社会福祉士として地べたから発せられる声に、耳を傾け続けたい。

出典：東京新聞 2024 年 6 月 26 日付「視点」欄
出題者注：このコラムの筆者は、新聞記者を続けながら社会福祉士資格（福祉に関する国家資格）を取得している。

問 1：この文章では誰に対して、どのような提案を行っていますか？

問 2：この提案に至った理由や背景、提案の目的について、どのように述べていますか？

問 3：この文章の内容を踏まえ、心理的支援を含め、人の支援を行うにあたり、支援の専門家はどのような姿勢で臨むことが求められると考えますか？　あなたの考えを述べてください。

以上の 3 つの問いについての解答を、800 字以内でまとめてください（解答用紙に収めてください）。解答用紙に記入する際は、問 2 以降は開始部分に「問 2」「問 3」と明記してください。

●総合型選抜　12 月入試

【小論文】（試験時間：60 分）

問題　以下の文章を読み、問 1～問 3 に答えてください。

カナダ北西部、冬季五輪が開催されたバンクーバーからずっと北上した北極圏の近くにヘヤー・インディアンと呼ばれる先住民が暮らしていた。一九六〇年代にフィールドワークをした文化人類学者原ひろ子さんによれば、この種族の子育ての大きな特徴は、子どもに「教える」という営みを一切しない点だった。

ヘヤー・インディアンの（①　でんとう）的な信仰では、人間を教え導ける存在は神だけだったからである。神ならぬ人間が人間を教えたり指導したりするのは、おのれの力を越えた不遜な行為とされる。厳しい大自然のなかでは、こうした（②　けんきょ）な信仰が生まれるのだろうか。親であってもわが子に教えたり指導したりしない。子どもも人間だからである。もちろん、学校やそれに類するシステムは一切もたなかった。この姿勢は徹底しており、例えばよちよち歩きの幼児が火に近づいても、ふつう私たちがするように「危ないよ」「アチチよ」と教えたり制したりしない。その代わりに、鈴を鳴らして幼児の注意をそちらに誘うなどして、さりげなく火から離れさせる。

最初に「育てる」と「教える」は不可分であると述べたけれども、ヘヤー・インディアンの子育てでは、どうやら後者がない。教育なき子育てである。それでも子どもは立派な大人に育つのだろうか。教えること、学ぶことの意味について、③ヘヤー・インディアンは興味深い示唆を与えてくれる。

何も教えないとどうなるのか。生きるに必要なことは、おとなから教えなくても（教えなければ）、子どものほうから見よう見まねで覚えはじめるのである。木の削り方、火の使い方、野ウサギの見つけ方、魚の取り方・・・・・。手を切る、やけどする、川に落ちるなど失敗も起き、危険もいっぱいだけれども、その体験を糧に子どもたちはそれらをしっかりと身につけてゆくことになる。

教えずとも子どもはみずから学ぶ、子どもにはその力があるという実例かもしれない。教育をめぐる議論では「みずから学力が大事」「みずから学ぶ力を育てよう」といった題目がかならず謳われる。そのお手本がここにある。しかも、ヘヤー・インディアンの子どもたちがそうやって学ぶものは、これもわが国の教育題目のひとつ、「生きる力」にほかならない。願ったり叶ったりのやり方に見えるけれども、私たちの場合、しょせん題目倒れで、ここまで徹底して子どもの自発に委ねる（②　けんきょ）さというか度胸はないだろう。それどころか現代日本でヘヤー・インディアン方式で子育てしたら、たちまち「ネグレクト」の烙印をおされて児童虐待とされかねない。このちがいは何だろうか。

（出典：滝川一廣（2013）.『子どものそだちとその臨床』日本評論社）

問 1　文中の下線部①と②のひらがなを、解答用紙に漢字で書き直してください。

問 2　著者は「ヘヤー・インディアンは興味深い示唆を与えてくれる」（下線部③）と述べていますが、どのような示唆なのでしょうか。

問 3　ヘヤー・インディアンの教育と、自分自身の受けた教育を比較して、あなたはどちらが良いと感じますか。その理由を体験談など含めて論じてください。

以上の 3 つの問いについての解答を、合計 800 字以内でまとめてください（解答用紙に収めてください）。解答用紙に記入する際、問 3 は開始部分に「問 3」と明記してください。

●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

【小論文】（試験問題：60 分）

問題　次の文章を読んで、後述の問いに答えてください。なお、問 1～4 を合わせて 800 字以内となるように解答用紙に記述してください。その際、問 3 以降は、解答がどこから開始されているか分かるように、開始位置には「問 3」・「問 4」を明記してください。

少し前、小学 1 年生の息子を持つ、なにかと辛辣な物言いを続けてくる、③ウマが合う夫婦の家で数時間駄弁（だべ）っていた。仰天したのが、とにかく学校の現場で「なぜなら」が重視されているということ。子どもが、その日に思ったことを短い文章にして書く。楽しかった、怖かった、気持ち悪かった、悔しかった……と書くだけではいけない。なぜそう思ったのかを書かなければいけないのだという。これは、実際の彼の文章というわけではないが、「花火がきれいだった」と書いたとする。それだけではなく「なぜなら」を付け足さなければならず、「たくさんの色があったからです」とか「お花畑みたいに見えたからです」などと書き添えなければいけない。そう思った理由が必須なのだ。

少なくとも、自分が子どもの頃にはこういう縛りはなかった。「先生あのね」で書き始めるように言われた記憶はあるが、「なぜなら」は必須ではなかった。「花火がきれいだった」に、理由は必要なのだろうか。①客観視せよ、自分を分析せよ、ということなのか。どうしてそう思ったのかまでを求めるようになると、子どもは、「なぜなら〇〇だと思ったから」と、自分の至った感情について理由が探し出せる出来事だけを述べるようになってしまうのではないか、とその親が心配していた。特に理由がなくてもそう感じたことをそのまま投げつけるだけではいけないのだろうか、と二人は言う。まったくおっしゃる通りだ。

理由がないことを、思ったままのことを、そのまま言い放ってしまえるというのは、子どもの②トッケンの一つでもある。自分の感情に理由なんていらない。先生から理由を聞かれても、答えなくていいし、考えたって答えられないかもしれない。「なぜなら」の強制は、いわゆる「大人」にさせるための教育としてはベストなのだろうが、それは、理由なんてなくても構わないという、とっても大切な自由を手放している。夫婦揃って、「なんか、とっても今っぽいよね。それに対して文句を言える空気じゃない。なかなか言えなくって」と嘆いていた。

家に帰ってきてから、たまたま再放送されていた『新世代が解く！ニッポンのジレンマ元日 SP2019 “コスパ社会” を越えて@渋谷』（NHK・E テレ）を見る。そこに登場する起業家や学者やアーティストの皆が、こぞって「自分は〇〇だと思っていて……」という話し方をしていることに気づいた。思っていて、と自分で言うのだ。「さっきの話はとても重要で」ではなく、「さっきの話はとても重要だと思っていて」とする言い方。自分が話していることなのに、自分が話していることではないみたいだ。自分をどう見せるかに卓越しているかどうかが問われすぎているからこうなった、と結論付けるのも早計だが、あまりの頻度に驚いてしまった。感情を吐き出すのではなく、その感情を吐き出す理由、つまり「なぜなら」を必須にしているように思える。感情を管理できていること、冷静沈着に分析できることって、そんなに大事なのだろうか。自分が思っていることに、そう思っていて、という客観性は必要なのだろうか。そんな必要、ないんじゃないだろうか。

出典：武田砂鉄（2024）わかりやすさの罪　朝日文庫

問 1　文中の下線部①の読みを平仮名で、②のカタカナを漢字で、書いてください。

問 2　文中の下線部③「ウマが合う」の意味を書いてください。

問 3　この文章の中で、学校現場で子どもに求められていることとは何か、簡潔に書いてください。

問 4　文中から筆者の主張を取り上げ、それに対するあなたの考えを書いてください。

●帰国生入試

【小論文】（試験時間：60 分）

問題　以下の文章を読み、問 1～問 3 に答えてください。

カナダ北西部、冬季五輪が開催されたバンクーバーからずっと北上した北極圏の近くにヘヤー・インディアンと呼ばれる先住民が暮らしていた。一九六〇年代にフィールドワークをした文化人類学者原ひろ子さんによれば、この種族の子育ての大きな特徴は、子どもに「教える」という営みを一切しない点だった。

ヘヤー・インディアンの（①　でんとう）的な信仰では、人間を教え導ける存在は神だけだったからである。神ならぬ人間が人間を教えたり指導したりするのは、おのれの力を越えた不遜な行為とされる。厳しい大自然のなかでは、こうした（②　けんきょ）な信仰が生まれるのだろうか。親であってもわが子に教えたり指導したりしない。子どもも人間だからである。もちろん、学校やそれに類するシステムは一切もたなかった。この姿勢は徹底しており、例えばよちよち歩きの幼児が火に近づいても、ふつう私たちがするように「危ないよ」「アチチよ」と教えたり制したりしない。その代わりに、鈴を鳴らして幼児の注意をそちらに誘うなどして、さりげなく火から離れさせる。

最初に「育てる」と「教える」は不可分であると述べたけれども、ヘヤー・インディアンの子育てでは、どうやら後者がない。教育なき子育てである。それでも子どもは立派な大人に育つのだろうか。教えること、学ぶことの意味について、③ヘヤー・インディアンは興味深い示唆を与えてくれる。

何も教えないとどうなるのか。生きるに必要なことは、おとなから教えなくても（教えなければ）、子どものほうから見よう見まねで覚えはじめるのである。木の削り方、火の使い方、野ウサギの見つけ方、魚の取り方・・・・・。手を切る、やけどする、川に落ちるなど失敗も起き、危険もいっぱいだけれども、その体験を糧に子どもたちはそれらをしっかりと身につけてゆくことになる。

教えずとも子どもはみずから学ぶ、子どもにはその力があるという実例かもしれない。教育をめぐる議論では「みずから学力が大事」「みずから学ぶ力を育てよう」といった題目がかならず謳われる。そのお手本がここにある。しかも、ヘヤー・インディアンの子どもたちがそうやって学ぶものは、これもわが国の教育題目のひとつ、「生きる力」にほかならない。願ったり叶ったりのやり方に見えるけれども、私たちの場合、しょせん題目倒れで、ここまで徹底して子どもの自発に委ねる（②　けんきょ）さというか度胸はないだろう。それどころか現代日本でヘヤー・インディアン方式で子育てしたら、たちまち「ネグレクト」の烙印をおされて児童虐待とされかねない。このちがいは何だろうか。

（出典：滝川一廣（2013）.『子どものそだちとその臨床』日本評論社）

問 1　文中の下線部①と②のひらがなを、解答用紙に漢字で書き直してください。

問 2　著者は「ヘヤー・インディアンは興味深い示唆を与えてくれる」（下線部③）と述べていますが、どのような示唆なのでしょうか。

問 3　ヘヤー・インディアンの教育と、自分自身の受けた教育を比較して、あなたはどちらが良いと感じますか。その理由を体験談など含めて論じてください。

以上の 3 つの問いについての解答を、合計 800 字以内でまとめてください（解答用紙に収めてください）。解答用紙に記入する際、問 3 は開始部分に「問 3」と明記してください。

●外国人留学生入試

【小論文】（試験時間：60 分）

問題　以下の文章を読み、問 1～問 3 に答えてください。

カナダ北西部、冬季五輪が開催されたバンクーバーからずっと北上した北極圏の近くにヘヤー・インディアンと呼ばれる先住民が暮らしていた。一九六〇年代にフィールドワークをした文化人類学者原ひろ子さんによれば、この種族の子育ての大きな特徴は、子どもに「教える」という営みを一切しない点だった。

ヘヤー・インディアンの（①　でんとう）的な信仰では、人間を教え導ける存在は神だけだったからである。神ならぬ人間が人間を教えたり指導したりするのは、おのれの力を越えた不遜な行為とされる。厳しい大自然のなかでは、こうした（②　けんきょ）な信仰が生まれるのだろうか。親であってもわが子に教えたり指導したりしない。子どもも人間だからである。もちろん、学校やそれに類するシステムは一切もたなかった。この姿勢は徹底しており、例えばよちよち歩きの幼児が火に近づいても、ふつう私たちがするように「危ないよ」「アチチよ」と教えたり制したりしない。その代わりに、鈴を鳴らして幼児の注意をそちらに誘うなどして、さりげなく火から離れさせる。

最初に「育てる」と「教える」は不可分であると述べたけれども、ヘヤー・インディアンの子育てでは、どうやら後者がない。教育なき子育てである。それでも子どもは立派な大人に育つのだろうか。教えること、学ぶことの意味について、③ヘヤー・インディアンは興味深い示唆を与えてくれる。

何も教えないとどうなるのか。生きるに必要なことは、おとなから教えなくても（教えなければ）、子どものほうから見よう見まねで覚えはじめるのである。木の削り方、火の使い方、野ウサギの見つけ方、魚の取り方・・・・・。手を切る、やけどする、川に落ちるなど失敗も起き、危険もいっぱいだけれども、その体験を糧に子どもたちはそれらをしっかりと身につけてゆくことになる。

教えずとも子どもはみずから学ぶ、子どもにはその力があるという実例かもしれない。教育をめぐる議論では「みずから学力が大事」「みずから学ぶ力を育てよう」といった題目がかならず謳われる。そのお手本がここにある。しかも、ヘヤー・インディアンの子どもたちがそうやって学ぶものは、これもわが国の教育題目のひとつ、「生きる力」にほかならない。願ったり叶ったりのやり方に見えるけれども、私たちの場合、しょせん題目倒れで、ここまで徹底して子どもの自発に委ねる（②　けんきょ）さというか度胸はないだろう。それどころか現代日本でヘヤー・インディアン方式で子育てしたら、たちまち「ネグレクト」の烙印をおされて児童虐待とされかねない。このちがいは何だろうか。

（出典：滝川一廣（2013）.『子どものそだちとその臨床』日本評論社）

問 1　文中の下線部①と②のひらがなを、解答用紙に漢字で書き直してください。

問 2　著者は「ヘヤー・インディアンは興味深い示唆を与えてくれる」（下線部③）と述べていますが、どのような示唆なのでしょうか。

問 3　ヘヤー・インディアンの教育と、自分自身の受けた教育を比較して、あなたはどちらが良いと感じますか。その理由を体験談など含めて論じてください。

以上の 3 つの問いについての解答を、合計 800 字以内でまとめてください（解答用紙に収めてください）。解答用紙に記入する際、問 3 は開始部分に「問 3」と明記してください。

●一般選抜　C 日程入試

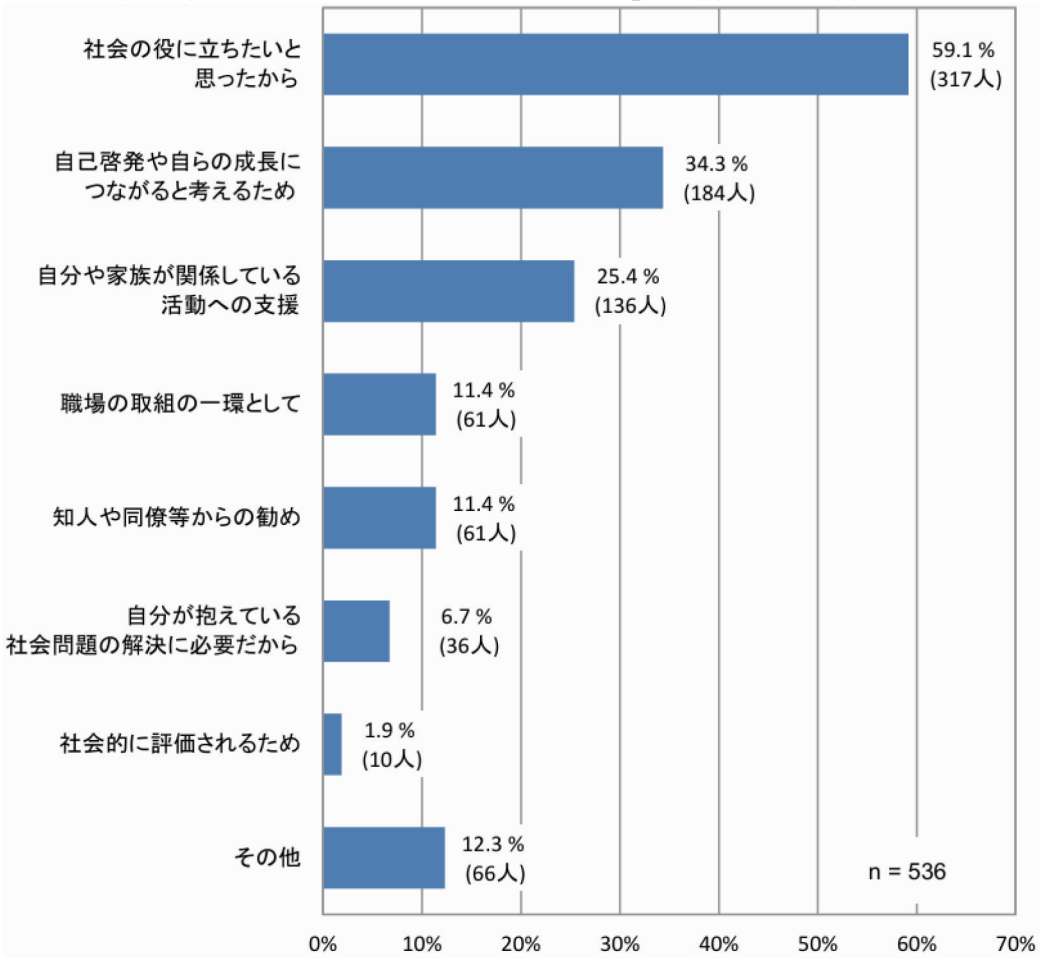
【小論文】（試験時間：60 分）

※ C 日程入試英語の問題は一般選抜 C 日程入試に掲載

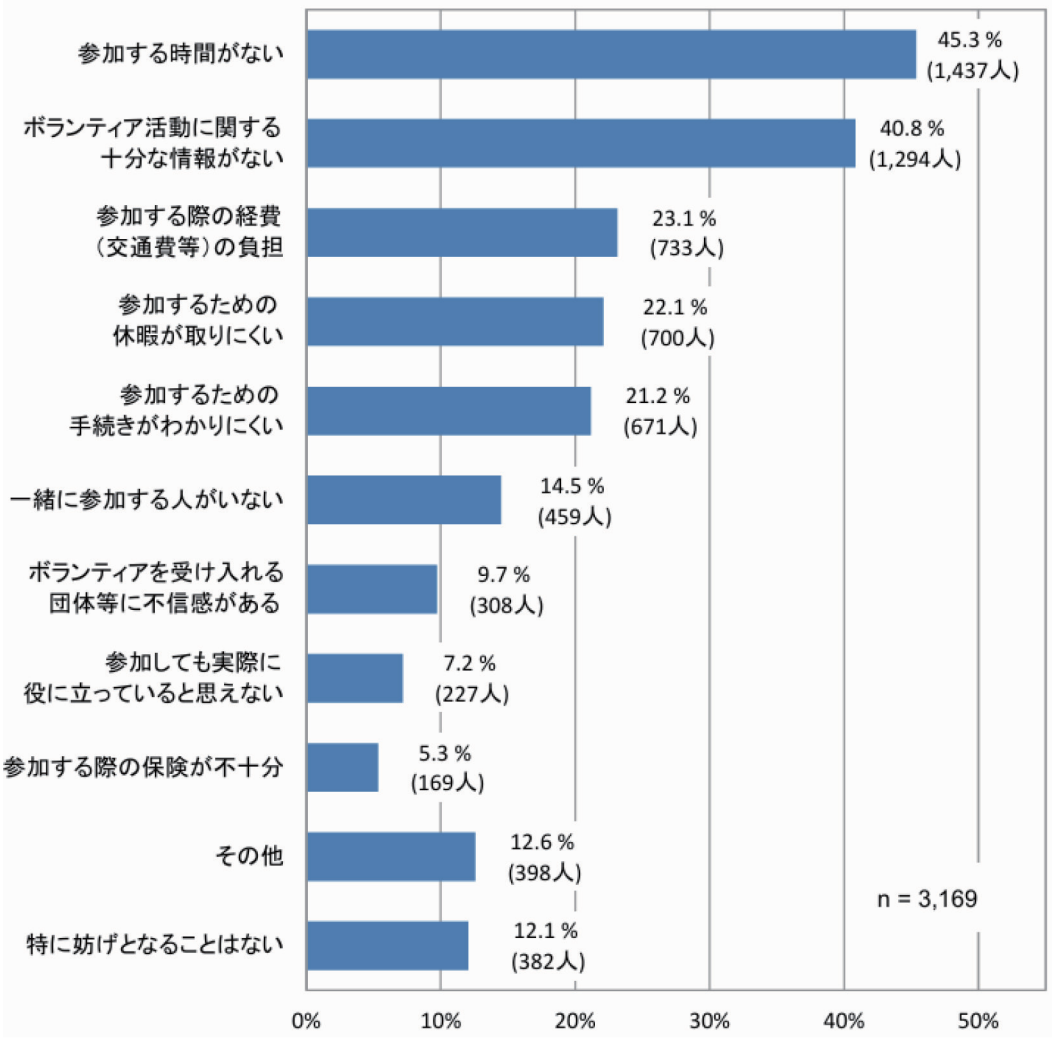
以下の調査結果は、内閣府「令和４年度市民の社会貢献に関する実態調査」の報告書から、ボランティア活動に参加する理由（表１）、ボランティア活動への妨げとなる要因（表２）についての回答を抜粋したものです。
この調査結果をみて、問１、問２に答えてください。

【調査概要】
〈調査の目的〉
本調査は、市民の寄附・ボランティア活動の実態を明らかにし、共助社会づくり及び社会貢献に関する施策のための基礎資料を得ることを目的として実施する。
〈調査方法〉
調査対象：全国に居住する満 20 歳以上の男女 8,200 人 に依頼。そのうち、分析の対象となる回答が得られたのは、3,170 名。
抽出方法：地区、年齢層の層化２段階無作為抽出法で調査を行った。

ボランティア活動に参加する理由（表１）
※ 2021 年の１年間でボランティア活動を「したことがある」と回答した人への問い



ボランティア活動への妨げとなる要因（表２）



問１　人々のボランティア活動に対する意識について、表１と表２から読み取れることをまとめてください。

問２　有名人がボランティア活動を行うことが売名行為のように受け取られ、社会的に批判を受けることがあります。表１で「社会的に評価されるため」と回答した者が 1.9%存在しているように、実際に、自分の利得のためにボランティア活動を行う者が、一定数存在すると思われます。

　このように、ボランティア活動を自分自身の利得のために行う姿勢について、あなたは賛成ですか、反対ですか。賛成・反対の立場を明確にして、その理由を述べてください。

　以上の２つの問いについての解答を、合計 800 字以内でまとめてください（解答用紙に収めてください）。解答用紙に記入する際、問２は開始部分に「問２」と明記してください。

●一般選抜　D日程入試

【小論文】（試験時間：60 分）

問題　以下の文章は、「頭がいいとか悪いとかってどういうこと？」という問いに対する、哲学者である中島義道の回答です。これを読み、下記の４つの問いに解答してください。

世の中には「頭のいい」と言われる人と「頭が悪い」と言われる人がいる。子どものころ「頭がいい」とは、成績がいいことに尽きる。成績がいいとは、教室で教えられたことはすらっとわかり、あまり勉強しなくてもテストで満点を取れること。これに対して、「頭が悪い」とは、何度先生から教えられても頭に入らず、テスト前にいくら勉強してもいい点を取れないことである。

だが、多くの大人（評論家のセンセイ）はこう断定せずに、「頭がいいからといって人間として立派とは言えない」と必死に唱えるが、むしろ彼らこそ「頭がいい」は「人間として立派だ」を含むと勝手に（①　かいしゃく　）したうえで、両方を懸命に切り離そうとしているのだから、欺瞞的である。

算数や国語ができる生徒は「頭がいい」が、計算ができず漢字が書けない生徒は「頭が悪い」。このことは、かけっこが速い生徒も遅い生徒もいるし、歌や絵がうまい生徒も下手な生徒もいることに対応している。確かにひと一倍時間をかけて努力すれば、「わかる」ようになる生徒もいるが、小中学生のころまでは「頭がいい」とは、特別の努力をしなくても教科内容がすべて「わかる」生徒のことである。

では、この場合「わかる」とはどういうことか？　それは、単純な要素から成り立っている。（1）ある規則が与えられると、すぐにその規則に従って与えられた問題が解けること。（2）先生の説明を聞きながら、先生がいま何を教えようとしているのか、すぐに理解すること。つまり、「頭がいい」とは、ある程度の知識を溜め込む能力に加えて、（むしろそれよりも）そのつど的確な判断を下せる能力なのだ。学校の勉強が「わかる」とは、一定の枠内で（②　きたい　）される正解を導き出す能力であり、これは教師（出題者）の意図を正確に見抜く能力にほかならない。

この能力はその後も力を発揮するが、年齢が進むにつれて、受験勉強における勝利者は「頭のよさ」というより、むしろプライドや負けず嫌いに支えられた「過酷な修業に耐える力」という面が強くなる。だから、偏差値の低い大学の学生の中にも、こうした修業能力は欠いているが、「頭がいい」学生を見出すことは稀ではない。

だが、学校秀才も受験秀才も、大人になると、もう一つの「頭のよさ」にしばしば打ち勝つことができない。それは、一定の枠のない状況において、問題を解決するための的確な判断を下す能力である。これは学校の成績とはあまり関係がない。だから、学校時代ぱっとしない男でも、事業で成功することもあるし、学校秀才が会社では無能なこともありうるのだ。

こうして、子どものころの「頭のよさ」は、そのまま社会的成功を保証するものではないが、その後の社会生活においても、会社の経費削減など枠がはっきりしている場合は、力を発揮する（これは「頭が悪い」人には絶対に真似できない）。だが、枠のないところでは無力であるし、人間の立派さとは何の関係もないことは言うまでもない。

出典：中島義道著，2013，『子どもの難問――哲学者の先生、教えてください！』中央公論新社.

問１　①と②のひらがなで書かれた部分を漢字に書き直してください。

問２　「頭がいいとか悪いとかってどういうこと？」という問いに対する筆者の回答を、簡潔にまとめてください。

問３　「頭がいいとか悪いとかってどういうこと？」という問いに対するあなた自身の考えを、問２でまとめた筆者の回答をふまえて、理由とともに論じてください。

問４　あなたにとって、あなた自身が「頭がいい」ことは大事なことですか？　大事なことではありませんか？
いずれかあなたの立場を明示し、問３のあなたの解答をもとに、理由とともに論じてください。

４つの解答は計 800 字以内とし、「問３」以降を解答用紙に記入する際はそれぞれの開始部分に「問３」「問４」と明記してください。

●出題意図・解答例

総合型選抜　９月入試【出題意図】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシー「１．自他の心の理解を深め、さらに良好な人間関係作り出すことに興味・関心のある人」に関連した問題であり、また、同じく「入学までに身につけておいてほしいこと」にある、「1．高等学校の教育課程で学修した基礎的な知識・技能を修得している」力を問う出題でもある。

（１）は日常的な漢字の知識を問う問題であり，入学後に大学で授業を受けて理解する基礎学力に通じる。
（２），（３）の出題意図は，文章や文脈を正しく理解する力，またそれを適切に表現する力を見るものである。これらの問題は，入学後に大学で授業を受けて理解する基礎学力の査定になる。
（４）の出題意図は，心を見せないことに価値を見出してきた日本人の感性を踏まえたうえで，カウンセラーの基本的態度について自分なりの意見を考え，それを適切に表現する力を問うものである。現時点で必ずしもラポール等の用語を知っている必要はないが，心理援助を志すにあたっては，他者の心情を理解したり尊重したりできる態度を持っていることが望まれる。

評価は以下の基準に基づく。
・心のしるしを示すものとしての贈答の習慣について文脈から理解し，概要を過不足なく記述できているか。
・日本語の文章や小論文として適切なものになっているか。（誤字脱字等の有無も含む）

【解答例】
(1)　a）すたれて b）あいさつ c）ようやく
(2)　心のしるし
(3)　贈答の際，贈り物は綺麗な紙および風呂敷で念入りに包まれ，受け渡しの際も「つまらぬものですが」や「そんなにお心遣いして頂いて」のような形式的な挨拶を交わすに留め，決してその場で中身を確かめない
習慣。
(4)　読者が納得や理解ができるものであれば評価対象とする。

総合型選抜　10月入試【出題意図】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシーの「求める学生像」にある「(1) 自他の心の理解を深め、さらに良好な人間関係を作り出すことに興味・関心のある人」および、「(3) 将来、心のケア、支援にかかわる仕事（スクールカウンセラー、医療・福祉領域における心理職など）や職場などの対人関係にかかわる仕事を目指す人」に関連した出題である。また「入学までに身につけておいてほしいこと」にある、「(1) 高等学校の教育課程で学修した基礎的な知識・技能を修得している。」「(2) 人間や社会の様々な問題について関心を持ち、資料やデータを基に筋道を立てて考え、説明することができる。」にも関連している。

今回の設問では、出題された文章を正しく理解し、支援が必要な人たちが自ら支援を求めることの難しさについて考え、公的な支援のあり方、そして心理的な支援を含めたさまざまな支援を行うにあたって留意すべきことについて考察を深め、自らの考えを表現する能力をみている。

問１、問２は、文章の内容を正しく理解し、要約して述べる能力を査定する問題である。これらの問題は、大学において講義を受け、また、文献を講読し、内容を正しく理解し、表現する基礎学力を査定している。

問３は、この文章や問１、問２における解答を踏まえて、支援のあり方に関する考えをつくり、表現する能力を査定している。大学で学んだこと、自分で学習したことを踏まえて、自らの考えをつくり、表現する応用的な能力を査定している。

評価は、以下の基準に基づく。

問１では、問題文の主張が向けられた対象者が「都や区などの自治体職員」であることを捉え、支援が必要だが適切な支援につながっていないと考えられる人たちを公助につなぐために、相談会や生活保護申請の受付の場を設けることを提案している。これについて、正しい日本語で表現できていることを評価する。

問２では、問１で解答した提案の背景・理由として、(1) 支援が必要な人が増えている、(2) その一方で支援が必要な人が支援を受けられない状況（「自分の力で何とかしなければ」と思い込んでいる、相談に行った役所で職員に差別的な視線を向けられ、追い返された人もいる、自ら申し出なければ制度を使えない「申請主義」など）について挙げている、（３）提案の目的として、食品配布会のような場で相談会や申請保護の申請を受け付けることで、受けられる支援を知ってもらい、申請しやすくする、以上のような点を挙げていることを評価する。本文中において、提案の目的について、「目的」という語は用いていないが、文意から目的を読み取ることを求める。また、正しい日本語で表現できていることも評価する。

問３では、食品配布会のような場だけではなく、心理的支援を含めた対人支援一般を行うときに留意をしなければならないこと、より適切な支援を行うための方法について、問１、２の解答内容を踏まえ、自らの考えを論理的に、正しい日本語で述べていることを評価する。

【解答例】

【問１】　都や区などの自治体職員に対し、毎週土曜日の昼過ぎに東京都庁前で行われる食品配布会と同じ場所、あるいは同様の支援活動を行っている場所で、相談会の開催や生活保護申請を受け付けてもらうことを提案している。

【問２】　支援が必要な人々は、人数も増え、様相も多様化している。しかしこうした人たちは、社会保障制度の存在自体を知らなかったり、「自分の力で何とかしなければ」と思い込んでしまっている。その一方で自ら申し出なければ制度を使えない「申請主義」の問題もあり、役所への心理的ハードルが高かったり、平日日中に役所へ行けない人は、支援を受けにくいという状況がある。食品配布会のような支援が必要な人が集まる場において、相談会や生活保護申請を受け付けることにより、必要な支援策を知らせ、支援の申請をしやすくすることを目的としている。

【問３】　支援における申請主義的な現状において支援を受けるには、自分が使える支援制度を知り、自ら申請するという２段階のハードルがある。ところが一般の人々が複雑で多様な支援策を知り、そこから自分が使えるものを選ぶことは困難であると考えられる。そこで専門家は、支援が必要な人々に対し、その人の状況に合った支援制度を選び、提案し、一緒に検討する姿勢が求められるだろう。

また支援を受ける際に、制度を利用することに対する恥ずかしさなどのネガティブな感情や、周りからの差別的な扱いを経験することもあり、それが支援を求めることをさらに難しくさせている。専門家は、こうした心情に充分に配慮し、まずは安心して相談できる環境を整えることが必要であろう。差別的な対応をしないことは当然であるが、秘密を守り、恥ずかしさやうしろめたさにも充分に配慮し、まずは支援を求めたことそれ自体を肯定的に評価する姿勢を取ることが望ましいと考えられる。

（このほか、支援の必要な人が申し出てくるのを待つだけではなく支援を届けに行くこと、普段から支援に関する広報活動を行い、支援が必要なときに支援を受けやすくすることなども考えられる。）

総合型選抜　12月入試、帰国生入試、外国人留学生入試【出題意図】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシーの「求める学生像」にある「(1) 自他の心の理解を深め、さらに良好な人間関係を作り出すことに興味・関心のある人」「(3) 将来、心のケア、支援にかかわる仕事（スクールカウンセラー、医療・福祉領域における心理職など）や職場などの対人関係にかかわる仕事を目指す人」に関連した出題である。また「入学までに身につけておいてほしいこと」にある、「(1) 高等学校の教育課程で学修した基礎的な知識・技能を修得している」と「(2) 人間や社会の様々な問題について関心を持ち、資料やデータを基に筋道を立てて考え、説明することができる」にも関連している。

今回の設問では、高等学校の教育課程までに学修した基礎的知識を確認するとともに、出題された文章を正しく理解し、子育てや学びと教育に関する文化的多様性について考え、子育てや教育のあり方と発達支援について考察を深め、自らの考えを表現する能力を評価するものである。

問１は、漢字の書き取り問題を通して基礎的知識を査定するものである。

問２は、文章の内容を正しく理解し、要約して述べる能力を査定する問題であり、大学において講義を受け、また、文献を講読し、内容を正しく理解し、表現する基礎学力を査定している。

問３は、この文章と問２への解答を踏まえて、教育の意味や教育的支援のあり方に関する自らの考えをまとめ、表現する能力を査定している。大学での学びから自らの考えや生き方を作り出していくために必要な基礎能力について査定している。

評価は、以下の基準に基づく。

問１は、正しく漢字表記ができているかを基準とする。(20点、10点×２問)

問２は、著者は文化人類学者原ひろ子が紹介する北米ヘヤー・インディアンの子育ての例が、日本を含む近代的な教育・子育てシステムに対してどのような意味合いを持つのかを文章から要約させる問題である。近代的な子育て・教育システムでは教えることと学ぶことがセットで用意されているが、ヘヤー・インディアンには教育の部分がないから、現在の私たちから見れば特殊な事例である。この特殊性を正確に要約するとともに、その特殊性が私たちの子育てと教育に対して持つ示唆について、正しい日本語で表現できているかを評価する。示唆として、次のようなことに言及できているかを査定する。①人を教えられるのは神だけであるというヘヤー・インディアンの信仰をもとにすれば、果たして私たちは教えることができるのかという省察への示唆、②何も教えないという子育ては可能なのか、可能ならば私たちは教えすぎではないかという反省への示唆、③近年喧しく言われる「生きる力」についてヘヤー・インディアンに習って考えるとどうなるのかといった示唆、などについて、正しい日本語で表現できているかどうかを評価する。①から③のうちの、いずれかあるいは複数を取り上げていれば評価の対象となる。(40点)

問３は、①受験生自身が経験した教育について振り返り、その特徴をヘヤー・インディアンの「教育なき子育て」と比較して、二つの異同を明確に言語化できるかどうか、②どちらの教育に価値や良さを認めるかについて明確に述べているか、③良さの根拠は何かについて論理的に論じることができるかを評価するものである。自らの受けた子育て経験・教育経験を明確に表現した上で、ヘヤー・インディアン型の子育てとの異同ならびにそれに対する自らの考えを論理的に、正しい日本語で述べているかどうかを評価する。(40点)

【解答例】

【問１】（①　でんとう）　伝統
（②　けんきょ）　謙虚

【問２】 著者が紹介するヘヤー・インディアンの子育ては、教育がないことを特徴とする。これは通常日本に見られる子育てや教育システムとは正反対のとても特殊と見える事例である。これは特殊であるからこそ、現代の日本における子育てと教育を考え直すきっかけを与えるという示唆をもつ。例えば、最近「生きる力」が教育目標に掲げられその意味をめぐって議論が行われているが、ヘヤー・インディアンの子どもたちの教えられずに学ぶ力を参考にすると、いったい、どのような子育てが本当の意味での生きる力を育むことになるのかさらに議論を深めなければならないことが分かり、これも示唆の一つである。(276字)

【問３】 問題文を読んで、私自身が受けてきた子育てと教育は、ヘヤー・インディアンのものとは正反対だと思った。なぜなら、私は、習い事を何にするかも、中学・高校や大学の進路選択でも、親の言うとおりにしてきて、自分で選択して決定したことがなかったなと思うからである。今までのところ、親が決めてくれた学校で満足しており、特に不満など感じたことはなかった。学校以外の面でも、親の言うとおりにしてきたが特に不都合を感じなかった。もし、自分で考えて学校を選ばなければならなかったとしたら、どうすればいいのか分からずパニックに陥ったかもしれないとも思う。

しかしヘヤー・インディアンと私が受けた子育ての、どちらが良いかと問われれば、私の受けてきたような保護者に守られたものよりも、ヘヤー・インディアンのやり方が良いのではないかと考える。

その理由は、失敗や困難から学ぶものも大きいと思うからである。私自身はそのような経験に乏しいが、高校での演劇部の部長の経験がある。さまざまな意見を持つ部員の意見を調整してまとめるのは大変でうまくまとめきれないこともあった。その時の失敗経験はストレスだったが、なんとか公演が終わった後で部員からお礼を言われたのは、とても得難い経験であった。(522字)

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図・解答例】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシーの「求める学生像（1）自他の心の理解を深め、さらに良好な人間関係を作り出すことに興味・関心のある人」と「入学までに身につけておいてほしいこと（1）高等学校の教育課程で学修した基礎的な知識・技能を修得している。及び（2）人間や社会の様々な問題について関心を持ち、資料やデータを基に筋道を立てて考え、説明することができる。」に関する問題です。

いずれも、漢字の読み書きや慣用句の理解、文章を正しく読み取る力といった基礎学力を問う問題です。さらに問（4）は、自分の感情をどう表現し、他者の感情とどう向き合おうとするのか、近年の社会の「空気」とどのような関連があるかについて、自分の考えを文章で表現する力を問うています。

【解答例】

(1) ①きゃっかんし　②特権

(2) 気が合う、意気投合する、性格が合う

(3) 自分の気持ちを文章にする際、なぜそう思ったのかを書くこと

(4)「自分の感情に理由なんかいらない」「感情を管理できていること、冷静沈着に分析できることって、そんなに大事なのだろうか」「自分が思っていることに、そう思っていて、という客観性は必要なのだろうか」のいずれかを取り上げる、または複数を的確にまとめる。筆者の主張に対する自分の考えを、読者が納得できるように説明する（考えの正否は基本的には問わない）。
（採点者用：ありのままの感情を大事にするためには理由は不要、客観的に伝えた方が相手にも伝わりやすい、自分の感情をそのまま伝えられれば良いが相手からどう見られるか怖さがある、など、受験者の視点で書かれていればOK）

一般選抜　C 日程入試【出題意図】

〈出題意図・解答例〉

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシーの「求める学生像」にある「(1) 自他の心の理解を深め、さらに良好な人間関係を作り出すことに興味・関心のある人」に関連した出題である。また、入学までに身につけておいてほしいことの「(2) 人間や社会の様々な問題について関心を持ち、資料やデータを基に筋道を立てて考え、説明することができる」とにも関連している。

今回の設問では、高等学校の教育課程までの学習指導要領でも触れられている「ボランティア活動」に着目し、社会参画や社会貢献について統計資料を正確に読み取るとともに、自らの考えを表現する能力を評価するものである。

評価は、以下の基準に基づく。

問 1 は、ボランティア動機に関連する統計資料である表 1（ボランティア活動に参加する理由）および表 2（ボランティア活動への妨げとなる要因）をそれぞれ適切に読み取れているか？　統計的な根拠に基づき、自分の意見を論理的で、正しい日本語で述べているかどうかを評価する。

配点：50 点

①表 1 について適切によみとれている（20 点）　②表 2 について適切によみとれている（20 点）

③文章の論理性、正しい日本語（10 点）

問 2 は、①ボランティア活動を自分自身の利得のために行う姿勢について、自らの立場（賛成／反対）が明確に示されているか、②自分の主張／意見を、具体的な根拠を示しながら論じているか、③文章全体として論理的に適切に表現されているか、が評価基準となる。

配点：50 点

①自分の立場（賛成／反対）についての主張・意見が明確に示されている（20 点）

②自分の立場を支える根拠が示されている（20 点）　③文章の論理性、正しい日本語（10 点）

【解答例】

問 1

表 1 では、ボランティア活動に参加する理由として「社会の役に立ちたいと思ったから」(59.1％）が最も多く、次いで「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(34.3％）が挙げられている。このことから、人々の多くが利他的な動機や自己成長を目的としてボランティアに参加していることがわかる。一方で、表 2 では「参加する時間がない」(45.3％)、「ボランティア活動に関する十分な情報がない」(40.8％）が主な妨げの要因として挙げられており、時間的制約や情報不足が大きな障害となっていることがわかる。このように、ボランティア活動に対する積極的な意識がある一方で、実際にボランティアに参加する実務的なハードルが存在することがわかる。

問 2

私は、ボランティア活動を自分自身の利得のために行う姿勢に賛成する。その主な理由は次の通りである。

まず、ボランティア活動の動機が自己利益であっても、その結果が他者や社会に対してプラスの影響をもたらすことがある。例えば、有名人がボランティア活動を行うことで、その活動がメディアを通じて広く伝えられ、社会全体にボランティア活動の重要性が認知される効果があるだろう。このような公の場での活動は、一般市民にボランティアへの関心を喚起し、新たな参加者を増やすことが期待できる。

また、自己利益を追求することで、長期的な社会貢献が促進されることも考えられる。例えば、キャリアアップの一環としてボランティア活動を行う場合、その活動を通じて得たスキルや経験が、将来的に社会的に意義のあるプロジェクトに貢献する可能性がある。自己啓発が動機であっても、その結果として社会全体の利益に繋がることは多いだろう。

さらに、ボランティア活動は自己満足や社会的評価を得る手段ともなり得るが、自己満足感や他者からの評価を通じて継続的な活動が行われるのであれば、結果として長期に渡り社会に貢献し続ける可能性が高まるのではないだろうか。これにより、社会的問題の解決に向けた具体的な行動が促進されるであろう。

一般選抜　D 日程入試【出題意図】

〈出題意図〉

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシーの「求める学生像」にある「(1) 自他の心の理解を深め、さらに良好な人間関係を作り出すことに興味・関心のある人」に関連した出題である。また、入学までに身につけておいてほしいことの「(2) 人間や社会の様々な問題について関心を持ち、資料やデータを基に筋道を立てて考え、説明することができる」とにも関連している。

今回は、「頭のよさ」をテーマとした。「頭のよさ」は、広く社会的に価値があると受け入れられている一方で、それゆえに多くの人々の悩みの元凶にもなっている。この価値について、自己を振り返り適切に言語化できるかを問うている。

〈配点・評価〉

一見するとわかりやすいが慎重な書きぶりの文章を、丁寧に読み解くことができるか、また、それをもとに自身の考えを論理的な繋がりのもとで組み立て、適切に表現できるかを評価するものである。したがって、論理的で正しい日本が使えていることは、全体に共通した評価観点である。さらに各設問の評価は、主に以下の観点に基づく。

問１：10 点（5 点× 2 問）

日常的に用いられる基本的な漢字を適切に記載できるか。

問２：20 点

「頭のよさ」について、主に以下の２点を含め要約として表現することができているか。

①「的確な判断を下す能力」を共通の要素としてあること

②「枠の有／無」、「子ども／大人」、「学校／学校以外の社会」を対比する論理構造

＊加えて、対比されている両者のうち、いずれかに価値がある／ないと筆者が断言しているわけではないことに注意を払った記述ができていれば、なお良い。

問３：30 点

主に以下の３点による。

①自分にとっての「頭のよさ」について、明確に記述できているか。

②その理由を説明できているか。

③問２の自身の解答との論理的な関係を示せているか。

問４：40 点

主に以下の４点による。無論、選択した立場によっての正否はない。

①「頭のよさ」が大事か／大事ではないかの立場が明確に示せているか。

②「自分自身にとって」大事であることを論じられているか（社会一般的な価値を論じることと混同していないか）。

③問３で示した自分なりの「頭のよさ」についての解答との、論理整合的な繋がりを示せているか。

④説得的な理由とともに論じることができているか。

【解答例】

問１　①解釈　　②期待

問２　「頭がいい」とは、的確な判断を下す能力が高いことである。その中にも、与えられた枠内で判断する能力と、枠がない状況で判断する能力がある。子どもの頃は前者が求められ、だから学校という枠内で成績が良いことが「頭がいい」ことになる。しかし、これは枠がないところでは役に立たないし、大人になって以降の学校以外の社会では後者のほうが重要であることも多い。

問３　私は、「頭のよさ」を、的確な判断を下せることだと考える。この点、筆者に概ね同意する。しかし、それは一定の枠の中でこそ発揮されるものであるはずだ。筆者は、これを「枠のないところでは無力」だと貶めているが、私たちはあくまで社会という枠の中でしか生きられないからである。仮に枠から逃れれば、それは反社会的で、人間の立派さからも逸脱してしまう。

問４　ある枠内で的確に判断を下せる「頭のよさ」は、私にとって大事だ。判断は、的確でないよりも的確なほうが望ましい。しかし、さらに大事なことがある。それは、「頭のよさ」を発揮する「枠」そのものについて考えることだ。

例えば、私が学歴社会という枠内でしか生きられないとすれば、大学受験の勉強に時間を費やすことこそ、「頭がいい」判断だ。しかし、これまで私は、受験勉強よりも、介護施設でボランティアをし、心理学の本を読むことに時間を使ってきた。なぜなら、私は厳格な学歴社会で生きる必要はないし、そのつもりもないからだ。私は、目の前で困っている人の状況と心を理解し、寄り添い力づけられる心理職として生きていきたい。

私が支援したい人たちの困りごとは様々だ。その様々な悩みに「頭の良い」支援をするためには、その人たちが置かれた様々な枠そのものを理解しなければならない。そして、私自身が、理想の心理職という目標の枠を忘れてはいけない。

私にとって「頭がいい」ことは大事だが、その前提にもっと大事なものがある。